

景況、17期連続プラス

県内景況天気図
(沖縄公庫)

※景況天気は売り上げDI・採算水準DI・資金繰りDIの平均値

業種	2016年				2017年		
	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 前回実績	4~6月期 前回見通し	7~9月期 今回見通し
全業種(財形-郵)	15.7	12.8	12.1	15.3	17.0	17.5	21.8
製造業	16.1	8.7	2.6	7.3	▲0.5	15.1	18.8
建設業	14.0	7.6	6.2	16.4	19.9	12.4	21.5
卸売業	19.0	17.5	17.1	27.8	30.0	28.3	33.3
小売業	22.0	21.7	25.2	20.3	27.0	23.4	19.4
運輸業	13.7	3.9	4.9	2.9	8.8	19.6	22.2
情報通信業	8.8	7.4	▲15.8	▲11.7	11.7	10.0	▲7.4
サービス業	9.4	9.5	6.7	18.0	19.0	15.6	20.1
飲食店・宿泊業	23.6	34.7	60.5	42.0	29.2	15.3	42.1

☀ 快晴…30以上~100以下 ☁ 晴…10以上~30未満 薄曇り…▲5以上~10未満
 ●曇り…▲30以上~▲5未満 ☔ 雨…▲100以上~▲30未満 (単位:%ポイント)

4~6月 沖縄公庫 建設など好調維持

沖縄振興開発金融公庫(川上好久理事長)は13日、4~6月期の県内企業景況調査結果を発表した。前年同期に比べて景況が「好転」したと答えた企業から「悪化」したと答えた

企業の割合を示す業況判断指数(DI)はプラス11.9となった。観光や建設関連の需要が好調を維持しており、17四半期連続でプラスとなった。7~9月期もプラスを維持すると見通し

ている。

業種別では、観光需要の高まりを受けて飲食店・宿泊業がプラス36.8、建築資材などの貨物量が増加した運輸業がプラス33.3、生コン関係が好調だった製造業がプラス12.9だった。情報通信業は需要がある一方で人手不足の影響を受けてマイナス33.3となった。

人員が「不足」と答えた企業から「過剰」と答えた企業を引いた割合を示す雇用判断DIはプラス42.4と人手不足が深刻な状況にある。各企業の経営上の問題は10四半期連続で「求人難」が最多だった。売り上げが「増加」したと答えた企業から「減少」したと答えた企業の割合を示す売り上げDIはプラス11.0となっており、卸売業や飲食店・宿泊業などが「増加」超だった。

調査は365社を対象に行い、337社から回答を得た。回答率は92.3%。

平成29年7月14日
 提供：琉球新報社
 ※無断での転用・複写等を禁じます

景況17期連続プラス

沖縄公庫4～6月 人手不足続く

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）が13日発表した4～6月期の県内企業景況調査は、前年同期に比べ業況が「好転」したと答えた企業の割合から「悪化」の割合を引いた業況判断DIは2・4で改善し11・9となり、17期連続のプラスとなった。

好況感が続く一方、従業員が「不足」から「過剰」を引いた雇用判断DIは42・4で大幅な不足超。前期より幅は縮小したが依然として高く、人手不足の深刻化が続いている。経営上の問題点（複数回答）も「求人難」が24・6％に上り、10期連続で最多とな

った。業況DIでは、好調な観光需要から飲食店・宿泊業が36・8、小売業は6・3とプラスを維持。需要が旺盛な建設業も16・9と2桁台を保っている。

一方、情報通信業は人手不足が影響し、マイナス33・3となった。全国的な人手不足からIT人材が県外に奪われている状況があり、売り上げの「増加」から「減少」を引いた売上DIもマイナス55・6となった。

経営上の問題点は「求人難」が最多で、業種別ではサービス業や飲食店・宿泊業で30％を超えた。同公庫調査課の比嘉努課長は「求人難は目下の重要課題。新規採用もままならず、深刻化している」と話した。

沖縄公庫業況判断DIの推移

